

5-3-2 神部神社・浅間神社大拝殿（重要文化財）

徳川 3 代家光将軍時代、日光東照宮と共に大造営された社殿は、惜しくも火災にて焼失した。

現社殿は、11 代家斉将軍時代・文化年間、幕府直営にて巨額の費用と多年の星霜、最高の技術を駆使して造営されたもので、豪壮華麗の美極まり「東海の日光」と称されている。殊にこの神部神社・浅間神社両社の大拝殿は、他に類のない特殊な重層楼閣造りで、世に「浅間造」と称され、当神社の象徴的建造物である。

高さ 81 尺（約 25 メートル）もあり、外観は彩色絢爛。殿内は 132 畳で、天井には狩野栄信・寛信の筆に成る墨絵龍と極彩色の天女図が描かれている。

平成 5 年 9 月吉日

静岡浅間神社

説明板より